

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 伝統に培われた「文武両道」や「自主自立」の精神を大切に、民主的・文化的で、世界の平和と人類の福祉に貢献する有能な人間を育成することをめざす。
- (1) 個人の尊厳を重んじ、正義と平和を愛する個性豊かな人格を育む。
 - (2) 基礎学力の充実を図り、興味・関心、能力・適性に応じた学習を通じて多面的な判断力を育てるとともに進路実現の力を養う。
 - (3) 積極的な行動力と旺盛な意欲（学習、研究、活動）を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業」「鍛える授業」をめざし、授業改善に取り組む。
 - ア 授業規律の徹底とともに積極的な学習態度を育てる。（学校教育自己診断において「授業満足度」に対する肯定的回答率 75%をめざす）
 - イ 共通履修科目の指導を通じて、普通科総合選択制高校の理念にもある基礎・基本となる学力の充実を図る。
 - ウ 生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性をもとに普通科総合選択制高校の理念に沿った教育課程を実施し、自ら学び考える力を育てる。
 - エ 選択授業充実を図り、生徒の興味・関心や進路実現の力を育てる。（普通科総合選択制アンケート「エリア学習の満足度」80%以上をめざす。）
 - オ 授業ノートの取り方、話しの聴き方、宿題や予習・復習をする習慣の定着を図るなどきめ細かく指導を行う。
 - カ 発展的学習にも力を注ぎ、高い学力の育成により関西中堅私立大学以上への受験者合格率 40%以上をめざす。
- (2) 英語のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、英語四技能（聞く・読む・話す・書く）の向上を図る。
 - ア コミュニケーションツールとして英語を学び、「積極的に英語を使う」学校づくりを推進する。
 - イ 国際理解教育を推進するとともに、各種検定試験の資格取得を通じて英語運用能力の向上をめざす。

2 キャリア発達の支援

- (1) 同窓生や地域人材、施設を活用し、生徒の「志」、「夢」、「希望」をはぐくみ、「目標」を持てるように育てる。
- (2) 川高講座（エリア特別講義）や「先輩と語ろう」、大学見学ツアー、分野別説明会、エリア選択・科目選択ガイダンスなど体験的活動を通じた組織的・計画的キャリア教育を行う。（普通科総合選択制アンケートにおいて「普通科総合選択制の高等学校で学んで良かった」に対する肯定的回答 90%をめざす）

3 「自主自立」精神の育成

- (1) 卒業後の社会で活躍できるための社会人基礎力の充実を図る。
 - ア 「あいさつ」の徹底を図る。
 - イ 「服装・頭髪」「時間管理」「集団生活のマナー」等、自立した行動の基礎になる生活規則の徹底を図る。
 - ウ 円滑なコミュニケーション能力を身に付けられるように育てる。（普通科総合選択制アンケートでの肯定的回答率 75%以上をめざす）
 - エ プレゼンテーションや発表の取り組みを通じて対人関係能力の向上を図る。（普通科総合選択制アンケートでの肯定的回答率 70%以上をめざす）
- (2) 豊かな人権感覚の育成をめざし、体験的な取り組みを取り入れる計画的に実施する。
- (3) 防災・非難訓練などを通じ、防災意識の向上や緊急時の自主的行動力の向上を図る。
- (4) 薬物乱用やいじめ等の防止のため、関係諸機関と連携し取り組みを進める。

4 「文武両道」の精神の育成

- (1) 学校行事や部活動の活性化を図る。
 - ア 生徒が主体的に企画・立案・運営する体育祭や文化祭により、達成感や満足感ある生徒会活動をめざした取り組みを行う。
 - イ 学年行事やホームルーム活動において生徒自らが運営し活動できる取り組みを進める。（学校教育自己診断における満足度 80%をめざす）
 - ウ 部活動の入部を促進し、部活動の活性化を図る。部活動の活性化により生徒自身の向上心や協調性・協力性等の教育効果を高める。
- (2) ボランティアなどの社会貢献活動を推進する。（地域清掃活動への参加者数、延べ 300 名以上をめざす）

5 学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上

- (1) 再編整備計画における改編を踏まえ、「将来構想検討委員会」を中心に普通科総合選択制の充実や本校の将来像等を検討し、分掌・学年・教科等が中心となって生徒の成長を促進する取り組みの充実を図るとともに、日々の教育活動等を積極的に校外に情報発信する。
- (2) 「中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」の実施を見据え、入学生徒の受け入れ態勢や指導体制の確立をはじめ、国際交流の取り組みを充実する。
- (3) 学校課題のスピーディーな共有化を図り、その解決に向けて、新分掌や学年などで組織的に取り組む。
- (4) 教員の「人権意識の向上」をめざし研修の充実や校内体制の確立を図る。
- (5) 「授業力向上」を図るため、授業の公開（校内外）を推進する。更に校務分掌を主体とした取り組みの充実を図る。
- (6) ミドルリーダーや若い世代の教員の育成につとめる。特に若い教員については管理職・首席・指導教諭を含め、組織的な指導を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(選択肢は、1 = よくあてはまる、2 = ややあてはまる、3 = あまりあてはまらない、4 = まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り 1 と 2 の合計を肯定的回答とする)</p> <p>○学校生活への満足度、全体的傾向 () は前年度、単位%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校に行くのが楽しい」 74.5 (74.4) 「施設や設備、道具や器具がこわれたら、すぐに修理、交換してくれる。」 61.2 (56.5) 「教室や廊下等の清掃が行き届いている」 48.5 (46.0) ・保護者「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 79.8 (80.2) 「子どもは、自分の学級が楽しいと言っている」 73.4 (76.0) 「教室や廊下等の清掃が行き届いている。」 54.8 (53.2) ・教職員「教室や廊下等の清掃が行き届いている」 14.0 (21.1) <p>●生徒、保護者は「学校生活への満足度」について概ね評価</p> <p>●老朽化した施設・設備の改善が抜本的な課題であるが、学校全体で校内美化に取り組む等、快適な教育環境づくりが必要</p> <p>○保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」 79.2 (79.4) 「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」 74.0 (76.8) 「学校は、保護者の願いに応じている」 72.6 (73.3) 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」 68.2 (70.8) 「学校のホームページをよく見る」 30.9 (31.0) ・教職員「家庭への連絡をきめ細かく行っている。」 85.7 (97.3) 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。」 78.6 (71.1) <p>●保護者への対応は概ね評価</p> <p>●家庭への意思疎通や情報提供については、保護者と教職員で認識に大きな隔たりがあり、この差を埋めることが必要。そのため、本年度リニューアルするホームページ(携帯サイト等も含め)を活用し、学年からのお知らせ等を積極的に発信する等の工夫とともに、きめ細やかな家庭への連絡や意思疎通を図ることが必要</p> <p>○学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「授業に満足している」 63.0 (57.2) 「授業はわかりやすい」 63.2 (56.8) 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」 61.7 (53.3) 「教え方に工夫をしている先生が多い」 59.0 (54.4) 「学習の評価については納得できる」 72.9 (68.2) 「授業で、自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」 42.3 (43.6) 「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」 33.8 (34.3) ・保護者「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」 47.5 (50.7) ・教職員「学習内容の分からない生徒について、補習など、適切に指導を行っている」 89.1 (57.9) 「学習活動の充実に分掌・教科・学年として工夫した取組みができています」 53.2 (42.1) 「学習指導計画・指導内容について、教科間で話し合う機会がよくある」 45.7 (52.6) <p>●授業満足度、教え方の工夫、評価については、生徒の評価が向上しているが、数値は決して高くはない。</p> <p>●生徒への補習などについては、教職員の評価が大幅に向上しているが、教職員間での連携が取れていない点においては課題が残り、学校全体として学習指導に取り組むことが必要</p> <p>●I C T 機器などの活用も含め、「総合的な学習の時間」や「エリアや教科の学習」等において、自分の考えをまとめ、発表する機会の拡充に取り組むことが必要</p> <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「将来の進路や生き方について考える機会がある」 76.5 (72.1) 「学校は知りたい情報を適切に知らせてくれている」 64.2 (59.5) 「ガイダンスや総合学習、進路 HR はエリア選択や進路決定に役立った」 59.2 (61.1) ・保護者「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 72.9 (74.7) 「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」 62.4 (66.0) ・教職員「興味・関心、適性に応じて選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 63.0 (52.6) 「教職員全体で進路指導に取り組む体制が取れている」 48.9 (31.6) <p>●進路情報の提供や将来の進路や生き方を考える機会について、生徒の評価は向上しているが、保護者はやや低下</p> <p>●教職員からの評価は向上しているが、今後はキャリア支援部、学習支援部、学年団が協力した指導体制を構築し、3年間を見通した進路指導が必要。また、保護者にも進路情報等を提供する機会を増やす等、生徒、保護者、学校が一体となって進路実現に取り組むことが必要</p> <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校生活についての先生の指導には納得できる」 67.2 (62.7) ・保護者「学校の生徒指導方針に共感できる」 69.5 (68.3) 「学校の生徒指導方針は、保護者に示されている」 63.3 (65.7) ・教職員「生徒指導は、生徒・保護者に理解されている」 80.5 (76.3) 「教職員は、協力して生徒の生活指導に当たっている」 61.7 (65.8) <p>●本校の生徒指導に対する生徒の評価は向上しており、保護者からも概ね理解されている。</p> <p>●生徒指導方針の理解については、生徒、保護者と教職員との意識に大きな隔たりがあり、この差を埋めることが必要。また、指導のあり方等については教職員間で共有するなど、学校全体で協力して生徒指導に当たる必要がある</p>	<p>第1回(6月10日(水))</p> <p>○分掌再編について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が生徒に向き合う時間を多くすることが再編の目的のひとつだと思う。教科指導、生徒指導にエネルギーを注ぐことができるようになることを期待する。 ・ぜひ検証してほしい。 <p>○学力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年示された「学力向上10のプログラム」の進捗状況報告は大変意義深い。今後達成していくことができれば、生徒、教員、そして学校が大きく変わる。 ・中心となる部署を決めて、学校全体として取り組み、組織の中でいかに具現化するか、教員の相互理解をはかりながらすすめてほしい。 <p>○アドミッションポリシーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側としても、文書だけでは伝わらないので、説明会の機会も設けたい。 <p>第2回(11月4日(水))</p> <p>○「学力向上10のプログラム」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「達成感」「甘えさせない」「参加型」をキーワードに、今後具体策を検討していくこと、一例として『朝の読書』を検討していることを報告。 ・『朝の読書』は保護者としてもありがたい取り組みだ。 ・「参加型」ばかりでもなく、講義も必要だということも理解させなければならない。 ・先生方の「思い」が表れている。授業改革に向けて、今後きちんと分析し、共通理解をして進めることが大切である。 <p>○分掌再編について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に向き合う時間の確保はどうか、また、時間のことだけでなく、様々な観点からプラスの面も出し合いながら検証してほしい。 <p>第3回(1月19日(火))</p> <p>○学校教育自己診断の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断 回答の選択肢が4択だと、どうしても真ん中の2つに集まる傾向 ・むしろ「そう思う」「そう思わない」の回答の割合が10%以上のものに注目する。 ・学校行事や部活動のその割合は30%近いが、逆に授業に関する項目や特にプレゼンテーションに関する質問には12%以上が「そう思わない」と回答している。授業のやり方、生徒主体の授業を工夫することで、行事などと同じように30%に近づいていく。 ・『プレゼン大会』も大切だが、それぞれの授業の中で、自分の意見を述べる機会を設ける。そのために、生徒の意見を引き出すような発問の工夫も必要。生徒が意見を述べる、その一瞬一瞬がプレゼンテーションだ。 <p>○分掌再編・専門コース設置校への改編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『主体性を育むさまざまな取組み』と、新しい「学校概要」に書かれているが、これが教員の使命だ。 ・専門コース設置校への改編や分掌の再編等、新しいものを作っていくというのは本当に大変だと思うが、実現していているという点は評価できる。 ・中学校でも、「自律」「主張」をテーマにしている。例えば、理科の実験をした後、以前は各自レポートを提出という形式だったが、今はクラス内で話し合った後、皆の前で発表する・・・という形式にするなどしている。こういう取組みが重要で、プレゼン能力につながる。それぞれの授業で、知識伝達型ではなく、もっとアクティブで、コミュニケーションなものにできないだろうか。

<p>○人権尊重の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒「学校では、いじめやセクシャルハラスメントが起こりにくい」 76.4 (76.9) 「学校では、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」 62.7 (59.1) 「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」 58.3 (54.2) 保護者「学校では、子どもに関するプライバシーが守られている」 83.7 (83.6) 「学校は、生徒の生命や人権を大切にしている教育に取り組んでいる」 75.6 (73.0) 「子どもに生命を大切にしている心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」 73.4 (72.7) 教職員「体罰やセクハラ等の防止等、人権尊重の姿勢にもとづいた指導が行われている。」 83.3 (81.6) 「生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を作るよう配慮している」 62.8 (57.9) 「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全職員で話し合っている」 35.7 (34.2) <p>●人権尊重の教育については、保護者から概ね評価されているが、生徒たちの数値は決して高いものではない。 ●教職員においても、人権尊重に関しては様々な課題や指導法について改善の必要があると感じており、今後は、課題をしっかりと把握して、生徒の相談に応じたり、生命の大切さを育む教育の推進が必要</p> <p>○学校の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 61.7 (68.4) 「担任（団）と副担・学年団の意思疎通や連携が円滑に行われている」 45.7 (57.9) 「分掌や学年等での連携が円滑に行われている」 55.3 (60.5) 「校内研修・学習会は課題に即したテーマで行われ、内容も充実している」 51.2 (36.8) 「教育活動全般にわたる評価を行ない、次年度の計画に活かしている」 45.7 (36.9) 「職員会議をはじめとした校内の会議では、有効な議論がなされている」 31.0 (18.4) <p>●教育課題について、教職員で日常的に話し合ったり、意思疎通を図る点では、昨年度より数値が低下しているが、校内で教育課題等について話し合う気運が醸成されてきている。 ●様々な教育課題については、学年会や教科会議、分掌会議等で議論を深め、情報の共有化を図るとともに、迅速に取り組んでいくことが必要である。 ●生徒にとってよりよい教育をめざす上で取組みを分析・評価し、今後の改善につなげることが重要</p>	<p>○学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 「朝の時間の使い方」について * 相当な労力をかけて議論をされている。 * 若い先生方中心に「朝の SHR」実施についての意見が出たようだが、経験上、朝の SHR は遅刻の減少のみならず、大変大きな効果があると思う。挨拶をし、生徒の顔を見る。生徒との関係も構築できるし、生徒間の人間関係（友達関係）もよく見える。 * 遅刻カードだけでは遅刻数減少・遅刻撲滅には限界があるだろう。 朝の SHR や読書の時間等を実施するにあたって課題は何なのか、本音で議論してほしい。 学力向上に対する取組みも、議論を重ね、工夫もされている。 前回に授業参観をしたが、これからも生徒が居眠りをしない等環境を整えつつ、生徒の主体性を育む取組みを実践して行って頂きたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「鍛える授業」「理解できる授業」をめざした授業力向上の取組み ア 授業規律の徹底指導と積極的な授業参加態度の指導強化を行う。 イ 普通科総合選択制の趣旨に沿った科目の更なる充実を図る。	(1) ア 全ての授業で、授業規律の徹底を図る。授業開始の挨拶や授業準備を徹底する。 ・新入生オリエンテーションや各学年授業の指導の中で聴く姿勢や授業ノートの作り方の指導を行う。 ・教科及び個人等で授業改革や改善、学力向上の取組みを検討、実施する。 イ 自由選択科目について、生徒の興味・関心や能力・適性、および進路実現に応じた科目の設置・充実を将来構想検討委員会および教科会議、カリキュラム検討会議を中心に進める。特に、生徒の進路実現に対応した選択科目での学力向上を図る。	(1) ア・学校教育自己診断の「授業満足度」肯定的回答を65%に。(H26:57.2%) ・活動実施状況確認 イ・普通科総合選択制の趣旨と本校の将来を見据えて、進路実現関係科目の積極的開講を実施する。 ・学校教育自己診断での「教育課程が良く整備されている」5%アップ(H26:31.6%) ・四年制大学進学における希望実現75%以上に。 ・学校幹旋就職100%維持 ウ・実施状況を確認	(1) ア・「授業満足度」肯定的回答が63% (○) ・「振り返りシート」の作成及び教科会議をはじめ、学力向上チーム会議においても校内研修を実施するなど、学校全体で改善策等を協議 →今後、教科会議等において具体化に向けて検討 イ・普通科コース制への改編整備が決定し、生徒実態に応じた新たな教育課程を策定 (○) ・「教育課程が良く整備されている」肯定的回答が42.2% (○) →今後は、渡日生の受け入れも含め、教職員の共通理解を図るとともに、新たな教育課程の実施に向けた準備を推進 (○) ・「希望実現率」が84.2%となり達成 (○) ・学校幹旋就職100%維持 (○) ウ・基礎学力の向上に向けて、生徒実態に応じた指導方法等を各教科で話し合う機会が増加 また、英語科ではCanDoリストの作成に取り組んでおり、他教科においても同様の取組みを検討 エ・普通科コース制への改編に伴い、1年生の国語、数学、英語において習熟度別少人数授業を平成29年度より実施 (○) そのため、平成28年度より数学で先行実施 →数学での先行実施により得られる課題等を精査し、改善点を含め他教科と共有するなど三教科での円滑な実施をめざす。 オ・授業公開と研究協議会を2回実施 (○) →授業力向上に向けて、校内研修を実施
	ウ 基礎学力の向上	ウ 共通履修科目における指導目標の共有化と達成のための指導プログラムを教科で検討し実施する。	ウ・実施状況を確認	
	エ 言語活動の充実	エ 国語、数学、英語の少人数展開授業を生徒の学力に応じたものとなるように充実する。	エ・実施状況の確認	
	オ 「授業力」の向上を目的とした授業公開・研究協議会を実施する。	オ 授業公開週間の設定を複数回行い、その時々目標設定し研究協議会を実施する。	オ・授業公開と研究協議会を2回実施	
2 キャリア発達の支援	(1)同窓生や地域人材、施設を活用 ア 同窓会と連携した講演会等の実施 イ 生徒の能動的な取り組みに重点を置いた進路学習を行う。	(1) ア 同窓会組織である「江風会」と連携し、進路意識を高める会を継続・実施する。 イ これまでの進路指導プログラムを再検討し、生徒が能動的に取り組むように改善工夫する。「総合的な学習の時間」の3年間の指導計画の見直しと再構築を実施する。	(1) ア・「先輩と語ろう」実施後のアンケートでの肯定的回答率80%をめざす。(第2回:73.5%) イ・普通科総合選択制アンケート「エリア学習の満足度」を5%アップ(H26:65.7%) ・「総合的な学習の時間」年間計画の再構築完成 ・学校教育自己診断の「進路指導関係質問」肯定的回答を70%以上に。	(1) ア・綿密な事前打ち合わせ等により、実施後のアンケートでの肯定的回答率85% (○) →事前、事後の指導等をさらに充実させ、継続した取組みとして位置づける。 イ・「エリア学習の満足度」は昨年度を2.1% (△) 上回り67.8% →コース制への改編に向け、専門科目の位置づけや内容の充実を検討 (○) ・3年間を見通した「総合的な学習の時間」の年間計画の基本的な枠組みが完成 (○) →今後は、4月からのスムーズな実施に向けて2、3月より準備し、生徒が能動的に取り組める計画を策定 (○) ・「進路指導関係質問」の肯定的回答は昨年度を2.6%上回り66.9% (△) 70%以上には及ばなかったが、4項目中3項目では昨年度を上回った。 →3年間を見通したキャリア教育を推進するため、キャリア支援部、学習支援部、学年団が協力した指導体制を構築

府立東淀川高等学校

3 「自主自立」精神の育成	<p>(1) 社会で活躍できるための社会人基礎力の充実を図る。</p> <p>ア あいさつの徹底 イ 遅刻指導、服装指導の強化</p> <p>ウ 生徒発表やプレゼンテーションの取組み推進</p>	<p>(1) ア 相互の挨拶の徹底指導を図る。</p> <p>イ 時間の管理を徹底するために導入した、「入室カード」による指導を強化する。</p> <p>ウ 授業や学年行事、ホームルーム活動に発表やプレゼンテーションの取組みを積極的に取り入れる。 ・ 新生生に対して暗唱スピーチを実施する。 ・ プレゼンテーションの取組みを各科目で進める。</p>	<p>(1) ア・実施状況確認</p> <p>イ・遅刻者総数を年間 2000 件以下に。1 年生は 500 件以下。(H26: 2467 件) ・ 学校教育自己診断の「協力して生徒指導に当たっている」肯定的回答 5%アップ (H26: 65.8%)</p> <p>ウ・普通科総合選択制アンケートの「関係項目」肯定的回答 60%以上に。</p>	<p>(1) ア・生徒会主催で初めて 12 月に「あいさつ運動」を実施。生徒自らが企画したことで非常に好評 (1 月に第 2 回を実施) →今後も継続的な取組みとして実施 (◎)</p> <p>イ・遅刻総数 2353 件 (△) ・ 1 年生 398 件 (◎) →遅刻指導の形骸化を防ぐための方策を今後検討 ・「協力して生徒指導に当たっている」 (△) 肯定的回答が 61.7% →教職員の異動も多いことから、今後は、学校全体で遅刻・服装指導ならびに授業規律などの指導に当たる</p> <p>ウ・「関係項目」の肯定的回答が昨年度を 2.7% 上回り 56.3% (△) 1 年生は進路学習として大学を訪問し、班毎に報告書を壁新聞として作成、掲示 →「総合的な学習の時間」や「エリアや教科の学習」等においてプレゼンテーションの機会の拡充に取り組む。</p>
4 「文武両道」の精神の育成	<p>(1) 学校行事や部活動の活性化を図る。</p> <p>ア 生徒運営の HR 活動充実 イ 生徒運営の企画運営する学年行事の実現</p> <p>ウ 1 年生の部活動加入率向上</p> <p>(2) 社会貢献する活動を推進する。</p> <p>ア 学校周辺や地域清掃活動への生徒参加</p>	<p>(1) ア LHR や SHR を生徒自身の手で行わせ、相互の教育効果を高め、その自浄能力向上を図る。</p> <p>イ 全学年で「合唱大会」や「球技大会」等を企画し、生徒が案作りから当日の運営までを行えるように指導を行う。</p> <p>ウ 校内での活動意欲を高め、学習面とともに教育効果の期待できる放課後部活動に積極的参加を促し生徒指導面、技術指導面、精神的支援、学習活動の支援等多面的な指導を行えるようにする。</p> <p>(2) ア 新大阪駅前の清掃活動に部活動単位での参加や生徒会や部活動などで地域貢献できるように促進する。</p>	<p>(1) ア・実施状況確認</p> <p>イ・学年行事の生徒運営状況の確認 ・ 学校教育自己診断の「学校行事満足度」75%以上 (H26: 72.5%)</p> <p>ウ・学校教育自己診断の「部活動満足度」68%以上 (H26: 65.5%) ・ 1 年生加入率 70%以上 (H26: 65.5%)</p> <p>(2) ア・参加状況の確認 ・ 参加者数 300 名以上</p>	<p>(1) ア、イ ・ 修学旅行、体育祭、文化祭等においては LHR を活用し、生徒自らが進める気運が醸成されている。 (○) ・ 「球技大会」(全学年)「合唱大会」(1, 3 年)の実実施企画運営についてはクラス役員が中心になって進めることができつつある。 ・ 「学校行事満足度」74.5% →学校行事等については、今後 3 年間を見通し、1 年生の時から生徒が主体的に運営できる力を育成するため、学年団、生徒支援部が協力して指導にあたる。</p> <p>ウ・「部活動満足度」肯定的回答が 61.8% (△) →若手教員等を中心に積極的に部活動指導に取り組む体制を構築 ・ 1 年生加入率 64.8% (△) →今後の部活動活性化に向け、入学直後の部活動紹介等の取組みを工夫するなど、入部率を高める。</p> <p>(2) ア・新大阪駅前の清掃活動に加え、学校内外の清掃活動 (生徒会主催 11/27)、吹奏楽部の地域貢献活動を実施。総数 500 名を超える生徒が参加 →今後は校内外において、さらに多くの部による清掃活動及び地域活動への参加を促進</p>
5 学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上	<p>(1) 改編や渡日生の受け入れに向けて分掌や学年・委員会等が組織的に取り組む</p> <p>ア 分掌・学年等の年間目標設定と評価の実施 イ 生徒の成長をポイントにした分掌再編に取り組む</p> <p>ウ 広報活動の推進</p> <p>(2) 高校生活支援の取組み充実</p> <p>ア 高校生活支援カードの活用充実</p>	<p>(1) ア 学校経営計画や年度の重点目標等に沿った分掌や学年の目標設定を行い、中間時期の点検と共に取組み状況の総括を行い、学校協議会で報告する。</p> <p>イ 改編や渡日生の受け入れを踏まえ、将来構想委員会を中心に「めざす学校像」や「生徒に付きたい力」等を検討し、その実現に向けて新校務分掌や学年、教科、各委員会等が円滑で充実した取組みを推進する。</p> <p>ウ 本校の特長やめざす方向性を積極的に発信</p> <p>(2) ア 高校生活支援カードの導入に関わり、生徒の高校生活充実のために保護者、生徒との相互理解を図るとともに生徒の成長を主眼に置いた高校生活や学習に対する支援の在り方とともに、人権教育の充実を図る。 ・ 担当組織の設置 ・ 保護者及び生徒懇談会の実施と充実</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の「分掌や学年に関する項目」肯定的回答 5%アップ (H26: 60.5%)</p> <p>イ・新分掌の取組みの状況把握と充実した取組みを実施</p> <p>ウ・HP 等のリニューアル</p> <p>(2) ア・実施状況確認</p> <p>・ 学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」75%以上 (H26: 74.4%) 「先生は、いじめや私たちが困っていることに真剣に対応してくれる」肯定的回答 5%アップ (H26: 64.2%)</p>	<p>(1) ア・「分掌や学年に関する項目」肯定的回答が 55.3% (△) →大幅な分掌再編を年度当初から実施したため、理解されていない部分や機能していない部分が見受けられ、現在、将来構想検討委員会で改善策等を検討</p> <p>イ・「将来構想検討委員会」が中心となり、改編や渡日生受け入れに向けた基本的な方向性を確定 (今年度 27 回開催) また、「学力向上 10 プロジェクト」を提唱し、「学力向上チーム会議」(再掲)において取組みを検討、実施 →1/15 (金) 学習会を実施し、教職員の意見を集約して、教職員が一体となって取組みを検討</p> <p>ウ・HP のリニューアルを現在進めている。 (○) 今年度中には全面リニューアルが完成の予定 →部活動、学校行事等の情報を在校生や保護者、同窓会をはじめ、地域や中学生に向けて迅速に発信できる体制を構築</p> <p>(2) ア・高校生活支援員会議を設置し、支援の必要な生徒 (対象者 7 人) の学校生活の充実を図ることができた。 (◎) →生徒の変化への素早い対応や、家庭との連携を充実する等、情報を集約するとともに共有化していく体制を構築 ・ 「学校に行くのが楽しい」肯定的回答が 74.5% (○) 「先生は、いじめや私たちが困っていることに真剣に対応してくれる」肯定的回答が 65.5% と 1.3% の増加に止まる。 →今後は、生徒と向き合う時間の確保に努めるとともに、学校全体で情報の共有化を図る。</p>